

## 平成22年度職員提案の流れ

### 提案の募集

- ・7月1日～7月30日の期間で募集
- ・75件(フリー部門:54件、テーマ部門21件)の提案の応募

### 一次選考

- ・8月上旬において、事務局(行政改革推進課)による書類選考を実施
- ・全提案を市長が目を通し、事務局選考で漏れた提案のうち評価の高い提案を復活
- ・75件⇒25件に選抜

### 二次選考

- ・9月上旬～中旬において、職員提案審査会委員5名による書類選考を実施
- ・25件⇒6件に選抜
- ・選考の結果、最終選考へ選抜されなかった提案のうち上位10件を**奨励賞**に決定

※職員提案審査会委員は市長、両副市長、企画部長、総務部長

### 最終選考

- ・9月27日において、職員提案審査会委員5名によるプレゼンテーション選考を実施
- ・二次選考で選抜された6件に対し、**市長賞・1級・2級・3級・努力賞**の上位賞を決定

### 表彰式

- ・10月14日において、最終選考で上位賞受賞者へ市長より表彰
- ・表彰後、市長と上位賞受賞者の懇談を実施

# 各賞受賞提案一覧

## 《上位賞》

部門	件名	提案概要	賞
フリー	茶殻堆肥化のための段ボールコンポストを設置	市役所に、職場から出される茶殻を堆肥化させるための段ボールコンポストを設置し、生ごみの堆肥化を、市役所内でも率先して取り組む。生ごみの堆肥化にあたり、茶殻のみを対象とする低めのハードル設定とすることで、職場でも気軽に取り組むことができることを実証することや、茶殻には、ミネラル、タンパク質、カテキンなどの栄養素が多く残っており、良質な堆肥を作る。	市長賞
フリー	ネットオークションを活用した差押物品及び不要公有財産の売却	滞納整理において差し押さえた物品及び買い替えやレイアウト変更等に伴い不要となった公有財産(備品だけでなく消耗品レベルの価格の物品についても)を民間のインターネットオークションサイトのシステムを利用して売却し、単に廃棄処分や倉庫に眠らせるのではなく、売却することにより少しでも多くの財源確保に努める。	1級
フリー	電力の入札について	平成12年の電気事業法改正により高圧(6,600V)又は特別高圧(66,000V)で受電されている施設について電気事業者を選べる制度により本市の施設において電力の入札を実施する。入札することで職員の電気料金への関心が高まり、電気料金削減のための効率的な運用方法を模索できる。	2級
テーマ	時間外勤務削減に向けた業務の効率化	各課の各担当において、毎週木又は金曜日に各職員の翌週1週間のスケジュール表を課内で確定させ、月曜日の朝礼時に課内でスケジュールを共有化させる。水曜日には進捗度を確認し、必要があれば職員間の仕事量を調整し時間外勤務の削減へ繋げる。部内でも部長及び所属長も部内のスケジュールを共有させる。スケジュールを基に繁忙期以外において、各所属ごとに追加のノー残業デーを設ける。	3級
テーマ	事務分担の半期単位での見直し	現在年度初めに各担当者の事務分担を決めているが、実際に行ってみると多すぎたり少なすぎたりと偏りがあることが現状であり、これに伴い時間外勤務の多い職員、まったくない職員という偏りができる。そこで実際の時間外勤務や業務量を半期単位で把握・見直しを行い、再度事務分担を策定しなおすことにより業務量の偏りを防ぐ。	努力賞
フリー	郵政官署への窓口事務の委託	「地方公共団体の特定の事務の郵政官署における取扱いに関する法律」が平成15年に施行され、一定の手続きを経て戸籍や住民票、印鑑登録証明などの市民生活に身近な証明等を郵便局で受け取れるようになった。これを活用し、市内の34郵便局における各種証明等の取扱いを行い市民サービスの向上や支所の統廃合などを目指す。	努力賞

## 《奨励賞》

部門	件名	提案概要	賞
フリー	公用車広告掲載事業	公用車にマグネット式の企業広告を掲載することにより、多額なコストをかけずに歳入増加に取り組む。他市の事例を参照にした本市における歳入増加見込み額は約100万円。	奨励賞
フリー	転任試験の実施と専門職員の確保について	現業職員にとって資格や履修経歴を活かした人材活用が無いことなどから、有効的な人材活用を図るため現業職員で資格を有する希望者に一般職(土木・電気など)への転任試験を限定的に実施し、合格者は専門職とし、当該資格が有効と思われる課に配属させる。	奨励賞
フリー	民間動画サイトを活用した小田原市のPR	YouTube等の民間動画配信サイトを活用し、小田原市が保有する動画資産や、市民・団体から公募した動画を小田原市として発信することにより、動画配信サイトという新しいチャンネルで市政・産業・観光等の様々な切り口で小田原市のPRを行う。	奨励賞
フリー	おだわらっ子ファーストスプーン事業について	小田原市内の新生児に、小田原ブランドである寄木細工・小田原漆器等の木製品を使った名前入りのファーストスプーンを販売し、新生児の親に対して食の大切さ、小田原の伝統・文化の良さに興味を持つきっかけをつくり、地域経済の活性化を図る。また、当該販売事業を、出生届の提出及びこんにちは赤ちゃん事業を通して行い、届書提出中のお客さまへの待ち時間中のサービス、こんにちは赤ちゃん事業の周知促進、当該事業での母親と保健師とのコミュニケーションの糸口とする。	奨励賞
フリー	地元婚活「ジモカツ」推進事業の提案	行政が様々なイベント(キャンプ、農業体験、釣り、料理教室、BBQ、スポーツ、ごみ拾いウォーキングなど)を企画し、市内在住の独身男女に参加してもらうことで、出会いの場を提供するとともに地元の魅力を再発見してもらう。「婚活」と銘打つことで若者を集めることができ、同じ地元市民としての連帯感も生まれる。またイベントを通して地元の魅力を再発見してもらう。	奨励賞
フリー	寄付金付き金融商品の販売促進	市内の金融機関と調整・協議し、小田原市への寄付金付き金融商品の販売をしてもらう。寄付の目的については、全市的な課題である、「環境」や「防災」等が市民に訴求しやすい商品となるほか、販売金融機関のCSR(企業の社会的責任)にも合致する可能性が高いと思われる。財源の確保が図られるほか、寄付の分野にもよるが、市全体で特定分野に取り組む姿勢をPRできる。	奨励賞
フリー	未利用官地の開放	利用されていない官地等では雑草等が生えて管理にかなりの手間がかかることや、街中の小中学生は自然とふれあう環境が減少しているため、利用されていない官地等の有効利用を図るため、自治会や小中学校を募集して草木を植えてもらい管理してもらう。これが地域でのつながりのきっかけや、小中学生の自然体験の場となり、自由な感性を養ってもらう。	奨励賞
テーマ	職場OB応援制度	選挙管理委員会のように、投票日に選挙管理委員会事務局員だった職員がお手伝いするように、他の所属でも繁忙期にお手伝いが可能な元職員(OB)が業務を手伝うことにより、その所属の全体的な時間外勤務を減らすとともに、職員の健康管理を推進する。	奨励賞
テーマ	審議会等の時間外開催の見直し	市民の審議会等における傍聴機会の拡大のため、正規時間外に開催する審議会等が増加しているが、時間外開催した審議会の傍聴者数は平成20年度と21年度を比較すると減少している。会議公開という枠だけでなく、会議録情報の公開を含め情報公開という政策パッケージで検討する。	奨励賞
テーマ	実務教育の場づくりについて ～現代流寺子屋の開設～	内部事務の基礎的知識や仕事の進め方を短期間に確実に身に付けるため、多くの課が共通して関わる内部事務を中心に、その事務を統括する立場にある主管課による講義の場を設ける。	奨励賞